

令和元年度 第5回狭山市行財政改革推進委員会 会議録

日 時	令和元年 12 月 20 日（金） 13 時 15 分～14 時 32 分
会 場	市役所 7 階 701・702 会議室
出席者	廣川会長、倉島副会長、金子委員、栗原委員、神月委員、齊藤委員、外山委員、山口委員 ※計 8 人
欠席者	後藤委員、服部委員
事務局	木村総合政策部長、村井総合政策部次長（基地対策課長兼務）、田口行政経営課長、山岸主幹、佐野主査、加藤主任
傍聴者数	0 名
議 事	(1) 狭山市行政評価外部評価結果について (2) その他
要 旨	<p>司会より、本日の会議が成立すること、また、公開とするが傍聴希望者はいない旨の報告がされた。</p> <p>(1) 狭山市行政評価外部評価結果について</p> <p>前回（10 月 16 日）の狭山市行財政改革推進委員会において、各委員からいただいた意見をもとに、正副会長により修正していただいた外部評価結果（案）に対し、事前に各委員からの確認を行い、最終案として提示し協議いただいた。（資料 1）</p> <p>外部評価結果（案）は、外部評価の対象とした 4 事業について、それぞれ第 1 ページに当委員会の評価結果を掲載し、第 2～3 ページに第一次評価及び第二次評価に対する各委員からの所見を掲載し、第 4 ページに各事業とも事業全体に対するその他の所見をまとめたものとした。</p> <p>外部評価結果については、ホームページで公表する際の様式等についての確認があったものの、内容における意見及び修正等はなく、提示された外部評価結果（案）のとおり決定された。（資料 1）</p> <p>(2) その他</p> <p>①令和 2 年度の狭山市行財政改革推進委員会の開催予定について</p> <p>今後の狭山市行財政改革推進委員会、令和 2 年度年間開催スケジュール案について、事務局から説明を行い、詳細の日程調整は必要となるものの、概ね時期については、案のとおり確認された。（資料 2）</p> <p>②令和 2 年度の外部評価の進め方について</p> <p>令和 2 年度の外部評価を実施するにあたり、今年度実施した外部評価までの評価全般を振り返り、第二次評価の視点や外部評価の対象を含め、今後の狭山市行財政改革推進委員会で確認していくべき評価の方向性等について協議した。</p> <p>協議内容を踏まえ、来年度の外部評価の進め方については、改めて事務局から案を示すことで確認された。</p>

質 疑 等	議事について、狭山市行財政改革推進委員会内において質疑応答、意見交換を行った。
添 付	【資料1】令和元年度 狭山市行政評価外部評価結果（案） 【資料2】狭山市行財政改革推進委員会 令和2年度年間スケジュール（案）

【(1)狭山市行政評価外部評価結果について】※質疑

事務局	事前に各委員からの確認をいただいた、外部評価結果（案）の最終案の概要について説明し協議いただいた。外部評価結果（案）は、対象4事業について、それぞれ第1ページに当委員会の評価結果を掲載し、第2～3ページに第一次評価及び第二次評価に対する各委員からの所見を掲載し、第4ページに各事業とも事業全体に対するその他の所見をまとめたもの。
委 員	外部評価の結果内容については、ホームページに掲載されるのか。
事務局	ホームページに掲載する際には、定められた形式で音声読み取りができる様にとの条件があるので、事業ごとに委員会のまとめ、各委員の所見は別々に編集して見られるようにする。この書式や型は異なるがホームページ上においても、全ての内容が確認できるものとして、また、各所管の事業への対応方針なども確認し、公表していきたいと考えている。
委 員	委員会に提示されたこのままの形式（書式）では、誰も見てくれないのではないかと。載せ方を考えていただきたい。
事務局	評価に至った経緯等を掲載するなど、一つのコンテンツで一連の流れが理解できるような構成を検討する。
会 長	評価結果については（案）のとおり決定することとしてよろしいか。
委 員	異議なし、了承。

【(2)その他】※質疑

①令和2年度の狭山市行財政改革推進委員会の開催予定について

事務局	令和2年度においては、今年度の対応と変わって事業ヒアリングを委員会として実施することとし、年間5回の委員会の開催を予定している旨、概要について説明し協議いただいた。
委 員	質疑なし。
会 長	概ね、このスケジュールで対応することとしてよろしいか。
委 員	異議なし、了承。

②令和2年度の外部評価の進め方について

事務局	令和2年度の外部評価を実施する場合の進め方等について、これまでに各委員からいただいた意見をもとに、第二次評価の実施方法や、外部評価対象事業の選定方法等、来年度に向けての改善の方向性について説明を行い、今後、委員会において確認していくべき評価の方向性等を協議した。
-----	---

委員	第一次評価は事業の内容を具体的に、第二次評価は事業の目的からそれぞれ掘り下げて評価を行なうことで、事業の目的を強調してほしい。外部評価において、具体的な部分に目が向きがちになると、事業の目的を見誤ってしまう。
委員	第一次評価を行う所管課においては、マイナス評価など行えないと考える。だからこそ、第二次評価において、もう少し高いレベルから評価を下したものについて外部評価を行なうべきではないか。
委員	今年度の評価の対象事業の中で、第一次評価と第二次評価において捉えた対象年度が異なっていると推測されるものが見受けられた。対象事業の年度については、一致していることが明確となっているべきであると考えます。
委員	当委員会は不要な事業を伝えていくべき立場にあるので、事業の必要性について当委員会で判断を行なうという方法もあるのでは。
委員	今年度の第二次評価結果においては、どういう視点からこのような結果に導かれたのかという説明が不足しており、目的もはっきり記されていない。施策からの視点で事務事業を評価するという第二次評価の目的が見えてこなかった。
委員	第二次評価は、施策の視点からではなく、第一次評価と同様に事務事業レベルで評価していると感じた。
委員	当委員会で行なう外部評価の目的は、職員が行なった第一次評価及び第二次評価が適切であったかチェックすることであり、わざわざ市民の目線を取り入れているのは、職員では見えない部分をあぶりだすことである。今年度の外部評価は、事業そのものに対する評価や、第一次評価と第二次評価のやり方や結果が混在し、整理しきれていなかったように感じる。
委員	今年度は、様々な視点から切り込むことが出来たので、結果的にはよかったと思うが、組織内での意思決定に携わる方たちに意見を言える場が欲しいと感じた。
委員	「評価結果を評価する」ことが少々窮屈であり、事業の評価に話がずれていくケースも多々あった。そこで、来年度については、対象事業の行政における第一次評価結果を一切確認せずに、当委員会は並行して事業に対する評価を行い、その結果をつき合わせてはどうか。
委員	興味深い提案だが、各委員の負担が増大することが懸念される。これまで通り、「評価結果に対する評価」でよろしいのではないか。
委員	事業に対する知識が足りないと、評価は非常に難しいと感じた。自分の専門性を活かせる分野もあったが、それでは市民感覚とは異なってくるのかもしれない。いずれにしても、事業の目的にしっかり着目して評価を行なうことが必要である。
委員	事業の選定だが、重点的な事業や旬な事業がある中で、行財政改革推進委員会の審議の基本は、財政面における無駄を省いていくことが求められている。今年度は、必要性の高い事業ばかりが選定されていたが、来年度は、必要性の低い事業も委員会での評価の対象として捉えていく必要があると考えている。
委員	対象事業の選定については、各委員の希望を聞いてもらいたい。ただし、対象となるすべての事業の資料を渡されて、その中から好きに選ぶというのも困る。当委員会で討論しやすい事業をある程度ピックアップしてもらいたい。
委員	事務局でピックアップしたもの以外から選定する枠がひとつくらいあってもよ

	いのではないか。
委員	事業の選定については、第一次評価、第二次評価の結果を確認したうえで行ないたい。
委員	事業の目的に向けて、適切に事務が執行されているか、そのような観点から事業を選定できると有意義な評価が行なえる。
委員	事業の選定にあたっては、各委員に評価を希望する事業のアンケートをとるなど、満遍なく意見を聞く方法を取り入れてほしい。
委員	順調な事業だけではなく、滞っている事業も評価の対象としたい。そのためには、事業の選定にあたっての方法を、いくつか事務局で検討して案を示してもらいたい。
委員	事務局で、事業の存続について疑問を感じているものがあれば、そのようなものを当委員会に諮り、改善に結びつけることが出来るのではないか。
委員	行政評価は、PDCA サイクルの「C」にあたる。現在は、チェックのみにとどまっていると感じられるので、ぜひ、次の「A」及び「P」につなげてもらいたい。
会長	本日の協議内容を基に、来年度の事業選定及び評価方法について事務局で検討いただき、改めて案を示してもらおう方向でよろしいか。
委員	異議なし、了承。